

令和5年度 府中市立府中第三中学校 学校経営報告

【目指す学校像】

人権の大切さを生徒に教え、教師は生徒の模範となる姿勢を示し生徒に寄り添った教育を行うことが大切である。人間としてのあるべき姿を教師は生徒に示し、誰に対しても人権を無視した態度をとることがないように教育に当たる必要がある。

また時代に応じた指導の在り方を考え実践し、社会が生徒に求められていく力をつけることが教育の役目である。生徒の主体性を重視し自主的に物事を行おうという力を育む教育に当たることが大切である。そして協働して物事を解決する場面を作り取り組ませることを忘れてはならない。

- 1 生徒の心の居場所になれる学校 **(人間尊重の精神)**
- 2 生徒が生き生きと主体的に考え学び自己決定により夢を実現できる学校
- 3 地域とともに歩み、地域から愛され、誇りに思える学校

【目指す教師像】

- 1 人権感覚に優れ、個々の人間性を意識し認め合える教員
- 2 生徒の多様性を理解し、生徒の良さや個性を伸ばすことができる職員
- 3 未来志向、プラス志向で考えられる教員
- 4 職員全員が気付き、高め合い協働して磨き合い課題解決する教職員集団
- 5 地域、保護者に情報発信を行い地域と共に歩み、地域と信頼関係を築く
- 7 感性を研ぎ澄ます。そのためには教養をみにつける
- 6 教育の今後は、協働的な学習と個別最適化の指導方法の充実である。
- 8 教師は生徒、保護者にとって特別の存在であることをもっと意識する
- 9 地域に住む中学生を教師としてどのように育むかを考える

【令和6年度 学校スローガン】

「生徒と教師が人間として尊重し合える関係」
「生徒に協働的な学習に取り組ませ、生徒の個性と主体性を生かす」

「チーム三中」をスローガンに「和」を図りながら学校力を高める。同じ職場に巡り会った出会いを大切に、明るく楽しい、しかも意欲と活気に満ちた学校にしたい。互いの良さを認め高め合い、また弱点は温かく補い合って組織体の一員としての機能を十分に発揮できるようにする。教職員がガラス張りの環境づくりを心がけることで学び合える教師集団を目指す。些細なことと思われることでも、声を上げ共通理解・共通実践を心がける。

I 教育活動の取り組みと自己評価

【目 標】

【自己評価】

- (1) 心の教育の推進
- (2) 健全育成の推進
- (3) 確かな学力の推進

- (1) 心の教育の推進
 - ①すべての学校行事を行うことができた。
 - ②随所で ICT を活用し活発な意見交換を行うことができた。
 - ③特別教室専門員とコーディネーターと連携を円滑に行い、幅広く生徒に対応することができた。
 - ④学校やけやき教室、その他の外部機関を活用し不登校生徒に対して学校が中に入り接続することができた。
 - ⑤学校全体で SDGs の推進を行い、生徒が自分たちの足元から世界を見つめ、自分たちにできることを考え実践することができた。
 - ⑥LGBTQ の視点に基づいた教育活動を展開するために講師を招聘しLGBTQ の認識を高める活動を行えた。
- (2) 健全育成の推進
 - ①「早寝、早起き、朝ご飯」を励行し生徒の基本的な生活習慣を確立させた。アンケート調査で85%の生徒がプラスの回答であった。
 - ②挨拶運動を推進し、校内、校外で場に応じた挨拶ができる生徒を育成することができた。朝の挨拶運動では地域、保護者の協力のもと行うことができた。
 - ④教員が時間を守ることを率先し行い、生徒もそれに従い時間を意識する行動をとることができた。
 - ⑤校内生活、登下校や校外学習を通して規範意識を醸成することができた。
 - ⑥情報共有を担任、養護教諭、家庭で行い学校全体が組織的に生徒一人一人を見守る体制を確立した。
- (3) 確かな学力の推進
 - ①評価評定についての進捗状況を授業、考査等で確認しながら精度を高めた。授業研究で教員間で意見交換をし評価と指導の一体化を図る取組を行った。
 - ②学級でのタブレット利用回数を増やし自発的に学習できる態度を育成できた。
 - ③定期考査のために学習する姿勢から学ぶための意義とらえた継続的に学ぶ姿勢を持続させる取組を行った。
 - ④生徒会が中心にSDGsの取組を行った。委員会に広げ生徒自身が実感し取り組む活動を行った。

<p>(4) 体力向上の推進</p> <p>(5) 生徒の生活環境等の整備</p> <p>(6) 地域連携と地域に根ざした学校を目指す</p> <p>(7) 安全管理及び安全教育を推進する</p> <p>(8) 教員組織体制を充実させワークライフバランスを図る</p> <p>(9) 家庭・保護者に対し</p>	<p>⑤学習支援員、副校長支援員、ICT支援員等を活用し授業でのタブレット等の活用について教員に指導助言を行えた。</p> <p>⑥授業改善を通し生徒同士が意見交換を行う時間を確保するとともに、深い学びにつながるように探究するための時間を充実させることができた。</p> <p>⑦板書等の工夫とユニバーサルデザイン化された授業で、授業を視覚化させることでねらいに迫る授業を展開できた。</p> <p>⑧数学科、英語科での少人数指導を通し、基礎基本を徹底し、興味関心をもち自主的に学習に取り組める生徒を育成することができた。</p> <p>(4) 体力向上の推進</p> <p>①体力テストの分析を行い保健体育科で本校の弱み克服のための手立てを考えた授業展開することはできた。</p> <p>②昼休み、体育の時間、部活動等で体を動かすことの楽しさを味わわせることができた。</p> <p>③ガイドラインに沿ったクラブ活動を充実させた。</p> <p>(5)</p> <p>①ユニバーサルデザインを意識し、生徒の学習意欲が高まる環境に整えた。</p> <p>②言語環境を整備し互いが尊重できる人間関係を育めた。</p> <p>③スクールカウンセラー等を活用により個に応じた対応を行った。</p> <p>④特別支援教室、サポートルーム等を活用し個に応じた対応は順調に進んでいる。</p> <p>④生徒理解を深める体制を確立し、教育相談を充実させた。</p> <p>⑤運営委員会、校内委員会を通し生徒理解を深める) 生徒の生活環境等の整備することができた。</p> <p>(6) 地域連携と地域に根ざした学校を目指す</p> <p>①スクールコミュニティの協力を得られた。</p> <p>②公開日では保護者、地域に学校の様子を観てもらえた。</p> <p>③道徳授業地区公開講座では、生徒の道徳性の在り方について考えさせた。</p> <p>④スマート連絡帳を有効活用することができた。</p> <p>⑤地域行事参加を周知し参加に努めた。</p> <p>⑥「あいさつ」「あとしまつ」と「心に届く一言運動」を小学校と連携し展開できた。</p> <p>⑦小学校との連携では校長や生活指導主任が定期的に訪問し連携を図ることができた。</p> <p>(7) 安全管理及び安全教育を推進する</p> <p>①三中危機管理マニュアルに基づき、危機未然防止管理、危機最小管理、危機転化管理の徹底を図ることができた。</p> <p>②三中防災マニュアルを活用する場がなかった。</p> <p>③毎月の避難訓練の実施と日頃からの危機意識と対応力を高めた。</p> <p>(8) 教員組織体制を充実させワークライフバランスを図る</p> <p>①校長通信等で周知の徹底を図ることができた。</p> <p>②組織対応を行うことで服務事故を起こさなかった。</p> <p>③支援員を活用し、教員の職務の効率化を図る。学校経営支援予算を有効に活用することができた。</p> <p>④ICTを活用して学校業務の内容を見直し校務改善につなげた。</p> <p>⑤計画的に人材育成を行っている途中である。今後続ける。</p> <p>⑥クラブ活動等への人材協力は課題が残っている。</p> <p>(9) 家庭・保護者に対し</p> <p>①評価評定の在り方や、指導方法について考え方や具体的な方法を保護者に明確に説明し透明性のある評価評定にした。</p> <p>②私費を減らすことに努めることができた。</p>
---	---